

人生の意味（パート3/3）： 代におけるりの神々

:

明: 代社会は、世界を混沌へとれることに 献する りの神々を作り上げました。

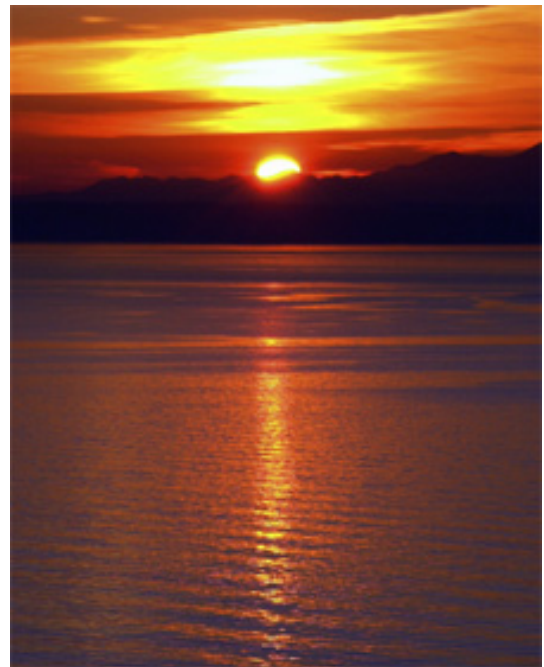
目: [事イスラ ムの信条人生の目的](#)

より: IslamReligion.com

日10 Jan 2011

集日 10 Jan 2011

崇 行 を必要としているのは か?



神は私たちの崇 行 などそもそも必要とはしていません。むしろ神を崇 することを必要としているのは、人 なのです。もし 一人神を崇 する者がいなかったとしても、それが 神の 光を ねることなどは してありません。またもし全人 が神を崇 したとしても、それが神の 光に何かを付加することなどもないのです。神を必要としているのは ならぬ、 私たちなのですから:

イスラームは神を、と畏敬、への期待をもって仕えるべき存在として捉えていますから、代的な生活は多くの神に仕えているということが出来るでしょう。そして 代の神々は、代人の人生に意味と背景を与えています。

私たちは、言 という家の中に暮らしています。そして私たちの表 は、そこから世界を眺める なのです。代における漠然としたイデオロギ としては、化、ナショナリズム、フェミニズム、社会主、マルクス主、また民主主、自由主、平等主 などもその方法次第によってはそこに含まれるでしょう。ドイツの言 学者ウヴェ ペルクセンの言 を借りるならば、社会の目的、あるいはともすると人 そのものの目的を形作り、定 するため、神の力と 威を不法使用するための“プラスチック（空虚で本 のない）の言 ”が使用されてきました。そしてこれらの言 は、“感じのよい”オラを内包しています。漠然とした言 は、不定形の 念となり得ます。そして 念を不定形にすれば、限のニズが 醒され、これらの 限のニズが一旦 醒すれば、それらは“自明”のであるかのように映るのです。

りの神々を崇 するという に ることは容易であることから、人々は、 代的思想が 要するような神々の多 性に する抵抗がないと言えます。そして“プラスチックの言 ”は、彼らの代弁者として す“使徒たち”に大きな力を与えます。というのも、彼らは他の人々を らせるため、“自明の”真 という名によって るからです。そして私たちは、あたかも私たちの健康や福祉、幸福と教育のために法律を敷いてくれる公理の 家であるかのような彼らの 威に わされているのです。

今日私たちが事を知るための 代性という は、裂け目や れ、盲点や沁みなどで覆われています。それは事 を 蔽しています。そしてその事 とは、「人々には神以外に真に必要なとするものなどない」ということなのです。しかし今日では、これらの空虚な“偶像”が人々の献身と崇 の 象に成り果ててしまいました。クルア ンはこう言っています：

???????????????????????????????????? 45?23?

これらの“プラスチックの言 ”は人の目に、他の言 を原始的で 代 れのもののように映らせます。代性を偶像とする“信仰者”は、これらの神々の崇 を りに思っているの

す。そして友人や同僚らは、そのような行 を 化したものと捉えています。“古い”神を固守することにいまだに固 する者でさえも、その神と共に新しく 代的な神々を崇 することにより、そうすることにおける当惑を覆い そうとするのです。明らかに、“古の神”への崇 を主 する多くの人々は、この出来事において神の教えを歪曲しようとしています。そしてそれは、神自身が私たちにそれらの“プラスチックの言 ”に奉仕せよ、と言っているかのように思わせるためなのです。

神崇 は 人的 社会的腐 だけでなく、自然界の腐 すら及ぼします。人々が、神が彼らに命じた通りに神に仕え、神を崇 することを拒否する 、神がそれゆえに人 を 造したところのいくつかの要素を完遂することが不可能になります。そしてその 果、私たちの世界はこれまで以上に混沌としたものになるのです。それは、クルア ンが次のように述べている通りです：

?? 30?41?

イスラ ムにおける人生の意味や目的への回答は、人 の基本的なニ ズを たしてくれます。つまりそれは、「神への回 」です。しかし望もうが望むまいが、 もがいつかは神のへと ることにはなっているのですから、 は に るということではなく、「いかに るか」ということになります。一体それは、屈辱的な苦 を与える の中で待ち受けている なのでしょう。それとも、神が 束していた 大な 喜なのでしょう。もし 者を待望するならば、神はクルア ンと 言者ムハンマドの教えを通じて、人々に永 の幸福を保 しつつかれの御 へと回 させてくれるのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/278>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。